

+++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第11号 2016年2月5日発行
+++++

立春を過ぎでも、まだこれから寒くなるのですが、気持ちだけは春に向かっていきます。小菅は20~30cmの雪で、ほぼ白銀の世界でしたが、ムギジの畑の雪はすぐに解けるので、大麦は良く育っています。しかし、ハルマジの団子麦は雪に埋もれたままです。写真のように明瞭な差があります（添付pdf版）。

会員および配信を希望される方に公開活動ニュースなどをお送りします。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、顔のない薄情な「マスコミ」ではなく、顔見知り信頼の「ロコミ」で転送伝達していただけたらうれしいです。連絡先は下記メールアドレスです。

展示解説・作業予定日：2月4日（木）、12日（金）、20日（土）、26日（金）ほか。参加希望者は木俣にメールしてください。kibi20kijin@yahoo.co.jp

1. 日本村塾 *Nihonmura* College for Environmental Studies

伝統知を学び合うことで、「素のままの美しい暮らし」(*Sobibo*)を勧める。

1) 扶桑くにゼミ第3回

日時：3月予定、小金井、読書会：推薦図書：『銃・病原菌・鉄』、上1900円、下1900円、ジャッレド・ダイヤモンド著、草思社。ほか検討中、ご意見があれば、お知らせください。

2) 自給農耕ゼミ第4回 3~4月未定、藤野、世話人は末村さん、宮本さん。

パーマカルチャーなど、話題にはいかがですか。ご意見をください。

3) 民族植物学ゼミ第3回 日時：5月4日（水・祝）小菅村 植物と人々の博物館

公開解説と読書会、小展示の企画。推薦図書：『生業から見る日本史』、国立歴史民俗博物館編、2008、吉川弘文館3000円。資料は用意します（購入不要）。

4) 自給農耕ゼミ第5回 日時：5月14日（土）小菅村 雑穀栽培講習会は岡部さん（丹波山村）と中川さん（上野原市西原）による伝統的な栽培法の指導。雑穀概説は木俣研究員がする。

日本で栽培されている雑穀6種とアマランサス、キヌアの種子が必要な方には少量なら差し上げられます。お知らせください。

2. 自然文化誌研究会第12回通常総会 2月20日（土）15:00~ 小菅村

3. のびと講座『味噌づくり』 3月12~13日 小菅村

4. 環境学習セミナーの企画案検討中

1) 第37回、6月下旬、小菅村、山村の豊かさを学ぶ、ミューゼス研究会担当。講師は交渉中。雑穀街道の話し合い。

2) 第38回、9月、小菅村か東京、自然と暮らす伝統知、自然文化誌研究会担当講師は検討中。ご意見ください。

報告

1. ミューゼス研究会（トランジション小菅）は、1月21日（木）に、小菅村の広瀬屋旅館で開催。第36回環境学習セミナーの振り返りと、第37回に向けて企画を検討した。青柳代表はじめ8名参加。ルートマップ「長作」完成、配布。

2. エコクラブ主催の、国際シンポジウム 「持続可能な社会に向けた場の教育—知っているから行動へ」 1月23日（土）～24日（日）に、早稲田大学大熊講堂ほかで開催、参加者は90名ほど。

話題は、環境教育、野外教育、冒険教育、持続可能性教育、社会教育、開発教育、国際理解、森のようちえん、地域づくり、地方再生など。自然文化誌研究会はエコプラスと共同で伝統知研究をしている。冒険教育分科会において、自然文化誌研究会はナマステや『冒険と子どもたち～冒険学校の歩み』を参加者に提供し、本会関係者も数名参加した。「冒険」的要素を含む学習手法はディズニー化を防ぐように検討する必要がある、深い問題提起がなされた。また、ナガランドの事例報告は、タイー日本自然クラブとの関連で見ると、民族植物（民間薬）や民族動物学（サイチョウ）に関わる興味深い内容であった。

3. 伝統知研究会は、1月28日（木）に、エコプラス事務所で行い、本会からは中込代表理事はじめ7名が参加した。野外活動参加者の意識調査や調査研究成果の公表について話し合った。

4. 植物と人々の博物館活動

1) 森とむらの図書室の蔵書

原沢文庫は藤野倶楽部の安心農園無形の家（藤野分室）に順次移動しています。西川インド文庫はおおよそ番号順に整理しました。現在は山村・森林関係、環境・教育関係の図書を整理しています。

2) 雑穀のさく葉標本の整理をしています。

3) 民族植物学ノオト第9号雑穀特集英文は印刷中です。第10号は2016年3月頃締切で原稿を募集しています。eメールなどで木俣までお申し込みください。バックナンバーは下記のHP 植物と人々の博物館（ミュージアムグッズ）で読めます。冊子版の第1号はなくなり、第2～6号は若干の在庫があります。第7～8号はまだあります。

.....

植物と人々の博物館は、山梨県小菅村で行っているエコミュージアム日本村（トランジション小菅）のコア博物館です。これはNPO自然文化誌研究会のボランティアな公民館活動プロジェクトで、小菅村と東京学芸大学の社会連携協定に協力しています。ご興味のある方が山村の素のままの美しい暮らし sobibo や伝統文化を村人から一緒に学び、継承するプロジェクトに参加して下さると、とてもうれしいです。

自然文化誌研究会が国内外の調査研究によって収集した民具、雑穀標本、図書、雑穀栽培見本園などを山梨県の山村小菅の暮らしと関係づけて展示、整理、解説しています。雑穀栽培講習会、日本村塾 3ゼミ（自給農耕、民族植物学、扶桑こく）、環境学習セミナーなども開催しています。雑穀街道（さあ山村）を、都市から農山村に暮らし向きを求め、鎌倉街道（いざ鎌倉）と反対方向に創ることを提案しています。

現在の日常活動 ボランティア研究員として、協力していただけるとうれしいです。

1. 雑穀栽培見本園の管理

2. 民具展示の整理、特別展の企画・作製、希望により解説もします。

3. 雑穀標本の整理

4. 農・林学、植物、環境、教育、人類学、およびインド・タイ・中央アジアほか欧米諸国の関係図書の整理、番号付をしています。希望により閲覧できます。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳、小川泰彦

ミュージアム研究会／トランジション小菅（山梨）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局：黒澤友彦（小菅村在住） npo-inch@wine.plala.or.jp

植物と人々の博物館：館長 木下善晴（小菅村在住）

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

連絡先：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.millettimplic.net/>



写真左；ムギジの大麥。右；雪に埋まったハルマジの団子麦。